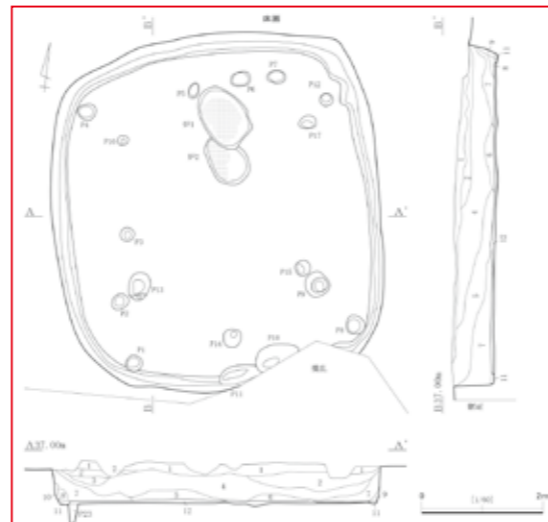


遺構のデジタル処理

それぞれの遺構の平面図・断面図を集め、必要な図面を図版の形にレイアウトします。パソコンを使用してデジタルで図版を作成します。



デジタル処理した竪穴住居の図面
〔財団調査報告 320「生麦八幡前遺跡」より〕



遺物の写真撮影



土器の写真(左)と土器の実測図(右)〔財団HPより〕
実測図は土器の正確な形や、どうやって作られているかを細かく図面に現します。
写真は、表情・雰囲気・質感を表します。



刊行された発掘調査報告書

遺物と遺構の図版と写真図版に文字原稿を加え、印刷をして「発掘調査報告書」を刊行します。

★ 報告書が刊行されたら整理作業も終了です。研究機関や地元の図書館などへ送られて活用されます。

★ 遺物や図面・写真は、無くなる遺跡のかわりに後世へ残すため、自治体によって保管されます。

野庭出土品整理室作業見学会

令和6(2024)年1月21日(日)

主催：公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

TEL：045-252-8689(代) URL:https://www.kaf.or.jp



地域の特色ある
埋蔵文化財活用事業



令和5年度 野庭出土品整理室作業見学会

令和6年(2024)1月21日(日)

出土品整理作業とは

発掘調査が終わると、泥の付いた土器や石器、現場で取った図面や写真が残ります。これら発掘調査の成果をまとめあげ、どのような遺跡なのか明らかにして1「発掘調査報告書」という本にしていく作業が出土品整理作業です。発掘調査報告書は、地域の歴史を後世に残す大事なものです。細かい作業を積み重ねて、1冊の本を作り上げていきます。

出土品整理作業に入る前に

発掘調査が終わると、まず調査で出土した土器や石器等の遺物の発見届を、1週間以内に警察に届けます。まず拾得物として届出を出し、所定の期間が過ぎると文化財として認定されます。

出土品整理のやり方を
紹介していきます



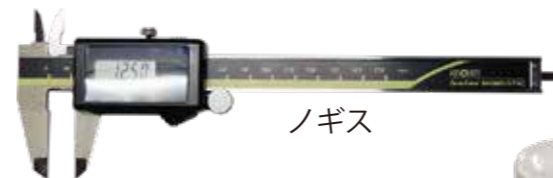
まこ
真弧



ディバイダー



キャリパー

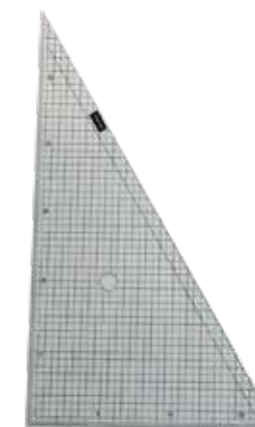


ノギス

めんそうふで
面相筆とポスターカラー



ぼくたく
墨拓とタンポ



三角定規



実測台



いろいろ
道具を使う
のねー

真弧：薄い竹で出来ていて、土器や石器の形を取るときに使います。

ディバイダー：遺物の文様の2点間の長さを写し取るときに使います。

ノギス：遺物の幅や厚さを測るときに使います。

キャリパー：遺物の厚さを測るときに使います。

実測台・三角定規：遺物の図面を書く時に大きさを測るために使います。

面相筆とポスターカラー：遺物に出土した場所等の情報を書くのに使います。

墨拓とタンポ：土器や銭の拓本を取る時に、墨をつけて叩いて模様を写し取ります。



土器の水洗いの様子
土器に付いた泥を慎重に洗います。



土器への注記
土器の表面に出土した場所等の情報を、面相筆で1点1点書き込みます。



細かい字で丁寧に
書いているんだね



土器の分類の様子
注記した土器を種類ごとに分類していきます。



土器の接合の様子
分類した土器を接着剤で付けて、元の形に組み立てていきます。



土器の復元の様子
接合した土器の欠けている部分に、石膏を入れていきます。



土器の拓本の様子
土器の表面の細かい文様を和紙と墨で写し取ります。



縄文土器の実測の様子
復元した土器を実測台などのいろいろな道具を使って方眼紙に図面を書きます。



真弧を使用した実測の様子
真弧を土器の表面に当てて形を写し取ります。



図版作成の様子
実測した土器や石器をペンで清書して、専用の台紙に貼り付けて印刷の原稿にします。